



発信 No.2022-6  
 2022年4月26日  
 学校法人 大正大学

## 産学連携！エンターテインメントの力で2025年問題の解決を模索

### ～第1弾のテーマは「こども」～

大正大学（学長：高橋秀裕、所在地：東京都豊島区）の表現文化学科アート&エンターテインメントワークコースの2年生58名が、企業・団体（計5企業・団体）と共同で、社会課題の解決に取り組みます。2022年度春学期ソーシャルデザイン基礎（担当教員：外川智恵）は、様々な社会課題に当事者意識をもって対峙する力の醸成を目的とし、ワークショップ形式の全3クォーターで展開する授業です。

「2025年問題」とは、全ての団塊の世代が75歳を迎え、「超高齢社会」に突入することから派生する問題の総称であり、本学では「こども」「高齢者」「医療」の分野において産学連携により課題解決を模索します。第1弾のテーマ「こども（学校生活を支える）」では、この領域の第一線で活躍する、認定NPO法人21世紀構想研究会、(株)西尾家具工芸社にご協力いただきます。その中で学生は本学で身につけた表現力やコミュニケーションスキル、分析力を駆使し、実社会と学生を繋いだPBL（問題解決学習）を行うことにより、実用的かつ実践的な学びを行うことができます。

最初の授業で企業・団体の代表の方から、抱えている社会課題に対する説明を受けた学生が、選択した企業・団体の課題解決を図るPR企画を立案し、チーム発表にて実施。一次選考で選ばれた各企業・団体毎に3チーム（合計6チーム）が最後の授業でプレゼンテーションによる発表を実施し、優秀賞作品を決定します。それぞれの企業・団体より副賞として当団体等のHPでの企画案の発表や、学会での発表の場の提供などが用意されており、大学と実社会を行き来する先進的な取り組みとなります。



1回目授業の様子

#### 【本件のポイント】

- ①社会問題に対して当事者意識を持ち、社会課題の解決に自らの学びを結びつけるPBLでの取り組みです
- ②企業・団体の直面する社会課題に自ら取り組むことで、大学での学修の枠を超えた新しい学習区分の実践となります
- ③学生一人一人が分析・立案した企画を社会に向けて発表する場の提供は自己肯定感の創出になり得ます



積極的に質問する学生の言葉に丁寧に応答する協力者

### 〈第1クォーター 協力企業・団体〉

#### ■認定NPO 法人21世紀構想研究会

知的基盤の強固な研究現場と産業振興の技術革新を実現し、真の科学技術創造立国の確立を目的として活動を展開。

目標：学校給食や社会との連携の重要性を十分に伝えるPR方法の確立。

#### ■(株)西尾家具工芸社

「こどもたちに良質を」の企業理念に基づき、安全で快適に学べる教育空間の提供を第一に学校施設づくりの専門家具メーカーとして教育環境に貢献する事業を展開。

目標：学習環境の重要性をわかりやすく周知するためのPR企画の立案。

#### ◆表現学部表現文化学科アート&エンターテインメントワークコース

パフォーミングアート（舞台芸術）、ファインアート、アミューズメントビジネス、ミュージアム、メディア業界、音楽ライブビジネスなど「人々に幸せな時間を提供し、自分も幸せを感じる」ようなエンターテインメントに関わるプロデューサーやマネージャーを育成しています。

チームの一員として何が必要とされ、どう行動すべきかを考え、さらに知的財産権、マーケティング、広報などの知識を学び、センスを磨くことで、業界の枠を超えて広く社会で活躍する能力を養います。

#### ◆大正大学

大正大学は、設立四宗派の天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗および時宗が協働して運営する大学です。その協働の精神を支えているのが、大正15年（1926）の創立時に本学が掲げた、「智慧と慈悲の実践」という建学の理念です。建学の理念のもとに〈慈悲・自灯明・中道・共生〉という仏教精神に根ざした教育ビジョン「4つの人となる」を掲げて教育研究の活動を展開しています。また、令和2年度文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に本学が推進する「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」が採択されました。公式HP：<https://www.tais.ac.jp/>

## 令和2年度 文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」採択校

「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」 大正大学

### ■取材に関するお問い合わせ

大正大学 広報課

電話：03-5394-3025（直通）FAX：03-5394-3046

E-mail：kouhou@mail.tais.ac.jp